

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	平成 30 年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、流域の自然環境と防災などについて学習する体験型講座を実施する。また、広く一般区民向けの環境防災学習講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営（18回） (2) 一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施（2回） (3) 展示会（巡回展2回）の運営 (4) 報告書作成		
役割及び責任 分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(18回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	②一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施(2回)	1 講座の企画及び運営 2 協力者との事前打ち合わせ 3 ちらしの版下作成・印刷 4 参加者募集事務 5 教材・資料等の作成・印刷	1 広報・PR
	③展示会の運営	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR
	④報告書作成	1 ①～③に関する報告書の作成	
⑤その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 上記①～④の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する)	
実施期間	契約締結日から平成 31 年 3 月 22 日まで		

記入日	令和元 年 7 月 5 日
・団体等名：	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
・記入責任者 氏名：	阿部 裕治
連絡先：	045-546-4337
・部署名：	港北区区政推進課
・記入責任者 氏名：	亀田 裕佑
連絡先：	045-540-2230

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合ってよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合って決めることができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合って役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合ってよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合って共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合って確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ○昨年度の改善点を踏まえ、自然環境の保全や災害に強いまちづくりを進め、都市と自然の共生に寄与するという目的を共有して、事業の計画づくりができた。 ○一般向け講座の1つの実施時期の変更、小学校講座での教員への講座実施など、事業がより広がる工夫をすることができた。
【今後改善が必要と思われること】 ○講座に参加した方が、参加しただけで終わることなくその後も関心を抱いていただけるよう、講座と展示会を連動させるなどの工夫する余地がある。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 ○事業の目的を共有することで、一般向けの環境防災学習講座を対象者の興味に合わせるように配慮して事業を実施することができた。その結果、敷居の高い内容も分かりやすく参加者に受け入れてもらうことができた。 ○小学校向けの講座では、気温上昇に伴う熱中症の発症などにもその都度情報共有して対応し、対応策を練ることで全18回の講座を実施することができた。
【今後改善が必要と思われること】 ○小学校講座での熱中症対策について、判断基準をより明確にし、実施判断や現場での素早い判断が必要になる。また、暑さの厳しい時期は避けて、開始時期を早めることも検討したい。
事業の成果 (協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)
○全体として、進捗状況等の情報を共有し、必要に応じて対応の改善を図りながら安全で効果的な講座が運営できるよう進めることができた。 ○一般講座の内容の改良、展示会でのイベントの実施など、子どもたちが関心を抱きやすいよう工夫することができた。 ○小学校講座では、子どもだけでなく、教員への講座の実施等、講座の対象を広げることができた。川で実施した講座では、子どもたちの身近な自然に対する意識の変化がみられるとともに、先生方に対しても自然や安全対応についての学びになったようだ。 ○展示会では、一般の来場者が興味をもって見学している様子がみられ、感想記入では事業の継続を望むコメントなどがあり、多くの方に事業の取り組みを知っていただくことができた。 ○事業の発信について 一般向け講座は、広報効果が高い地域のインターネット新聞社にも協力いただき広報を行った。展示会では、展示会場となったトレッサ横浜、鶴見川流域センターからもWEBチラシや紙面のチラシで広報を行い、周知を図った。

○鶴見川流域水マスタープランの推進に大きく寄与できた。詳細は以下の通り。

- ・鶴見川流域水協議会主催の夢交流会に太尾小学校が参加し、学校ビオトープの取り組みを発表。鶴見川流域の小学校とも交流を行った。本事業の活動発表を行い、啓発することができた。
- ・新吉田小学校は、講座をきっかけとして鶴見川の学習をすすめ、校内の発表会で鶴見川の水害や治水対策、水マスタープランの取り組みを伝えた。
- ・昨年度講座に参加した矢上小学校では、今年度5年生で鶴見川の水害や治水対策の学習を行い、恩廻公園調節池の見学や、治水施設（鶴見川多目的遊水地、恩廻公園調節地、矢上川地下調節池）の模型作成、流域に戦後最大の被害をもたらした昭和33年狩野川台風の浸水実績図などを作成した。本事業の展示会では、これらの展示を行い、水マスに大きく貢献することができた。

自由記入欄

○協働の体制をとることで、相互の立場を理解し互いに補い合うことができた。

○体験的な活動で足もとの自然とつながることによって、子どもたちの意識は変容し、興味関心が深まり広がっていくものと思う。それは大人そして地域社会を変える大きな原動力となる。今後も子どもたちが安全で魅力的な体験ができるよう継続して対応していきたい。